

平成 21 年度研修員 永田有花さんの声

プロフィール

学生の頃からたくさん旅をし、途上国を訪問したことがきっかけで、国際協力に興味を持つようになりました。アメリカの大学院で国際農業開発学・国際栄養学を専攻し、インド、アフリカで2年間程経験を積んだ後、本事業に参加しました。海外研修中は国際連合食糧農業機関（FAO）アジア太平洋地域事務所で栄養分野の事業に携わり、研修終了後も引き続き同事務所で活動した後、現在はFAOカンボジア事務所で、プノンペン近郊スラム街における食糧安全保障プロジェクトのオペレーションズ・オフィサーとして活動しています。今後も食糧・栄養分野の専門性を軸としつつ、平和構築に携わっていきたいと考えています。

1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

平和構築分野については全くの素人でしたが、アフリカで2年間活動するうちに、国際連合児童基金（UNICEF）ケニア事務所で大統領選挙後の暴動に対する緊急支援に携わる機会があったこと、またその後東アフリカでODAプロジェクトの案件発掘・形成業務に携わる中、ルワンダやブルンジ等の紛争終結国で活動する機会が多くあったことから、「平和構築」については少なからず興味を持つようになっていました。そんな中、何かのメーリングリストで本事業について知り、非常にユニークなプログラムであると興味を持ち、すぐ事務局に「素人ですが大丈夫でしょうか？」と質問させていただいたところ、「様々なバックグラウンドの方に来ていただきたいと思っているので是非応募してください」との回答をいただき、それならば挑戦してみようと思ったのが応募した理由です。

また、UNICEFでの緊急支援活動を通じて、特に緊急時の国連の役割というものを強く感じ、機会あればまた国連で活動してみたいと思っていたので、国連ボランティアとして海外研修させていただける点も魅力的でした。

2. 国内研修の感想は？

これまで平和構築分野での活動経験がなかったので、初めは専門用語すら分からず難しいと感じる講義は多かったものの、全体的には「人材育成事業」というだけあって、専門性よりも国際協力・平和構築の現場で必要とされるスキルを身につけるための、総合事業であるという印象を受けました。単に講義を受けるだけでなく、グループワークで実際にプロジェクトの提案書を作成してプレゼンテーションをするなど、実践的な内容が多く非常に充実していると感じました。

また、これから平和構築の現場で活躍していくであろう仲間達と出会い、同じ時間を共有する中で、これまでの経験や、これから世界各地で仕事をしていく上での不安・悩みなどを語り合った経験は、自分にとっての財産となりました。

3. 海外実務研修での活動について教えてください。

FAOアジア太平洋地域事務所で、アジア地域各国の食糧安全保障・栄養プログラム／プロジ

エクトのサポートを行いました。具体的には、新規プログラム／プロジェクトの提案書の作成、関連法案への技術的助言、各国連機関とのコーディネートから、地域会議を開催するにあたっての提案書の作成、資金確保／管理、会場の予約／アレンジ、参加者の選定／招待状の送付、会議プログラムの作成、開会挨拶のドラフト作成、司会進行、議事録作成まで、幅広い業務を担当しました。

また、より現場に近い仕事をしたいと希望したところ、タイ北部ですでに実施されていた人間の安全保障プログラムの栄養分野の活動を全面的に任せられることとなり、小学校での活動（学校菜園および栄養教育）を担当することになりました。同プログラムにおいては、ニーズ調査、活動計画の作成、モニタリング指標の検討／見直し、調達、資金管理、コンサルタントの採用、各種レポートの作成、各関連機関とのコーディネート業務等の一通りを経験させていただき、また栄養教育研修プログラムにおいては、研修資料の作成、講師の採用、会場・参加者の宿泊施設のアレンジ等、研修を実施するにあたり必要な準備の全てを行いました。

4. 海外実務研修の感想は？一番印象に残っていることは？

上司との2名体制でアジア全域の栄養と食品衛生の2分野を担当していたので、とにかく仕事量が多く忙しかった、というのが感想です。大きな会議を企画・運営したり、会議に出席してプレゼンテーションしたり、上司と2名の名前で論文を発表したり、新規プロジェクトの提案書を作成して資金確保したり、とめまぐるしく日々の業務をこなすことで精一杯でしたが、人間の安全保障プログラムを担当するようになってからは、忙しい中でも現場（小学校）に行き、特に子供たちや先生方と触れあうのが楽しみの一つでした。一番印象に残っているのは、やはり片道5時間ほどかけて何度も川を越えながらミャンマー国境付近の現場に行った時のことです。市場から5時間も離れ、雨季には川の増水により孤立してしまい、新鮮な食材を買うことができないような場所にある学校を訪問し、学校菜園の重要性を強く感じるとともに、自分の行っている活動が子供たちに与える影響を考えて気が引き締まる思いがしました。また、同行していただいた州政府の女性職員に「担当している学校の中でこれほど状態の悪い学校があるとは思わなかった。自分も勉強になったし、今後はこのような学校を精力的にサポートしていきたい」と言っていただけたことも、大変嬉しく思い、印象に残る出来事でした。



【人間の安全保障プログラムで学校を訪問】

5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

2012年1月からFAOカンボジア事務所にて、EC-FAO食糧安全保障プロジェクト(EC-FAO Urban Food Security Project)のオペレーションを担当しています。これまでは（海外研修派遣先であった地域事務所では）アジア地域各国の食糧安全保障・栄養プログラム／プロジェクトをサポートする立場にありましたが、今後はより現場に近いところで1つのプロジェクトに集

中して活動できる点が、自分には合っていると思います。これまで自分に足りないと感じていたプロジェクト・マネジメントの経験を積むよい機会でもあると思うので、まず今は目の前にある仕事に精一杯取り組みたいと考えています。

中・長期的には、自分のライフプランとの兼ね合いになるとは思いますが、やはり現場の仕事が好きなので、なるべく現場に近いところで活動できる場を探したいと思っています。今後も引き続き、食糧・栄養分野を軸にして、平和構築に関わっていきたいと思っています。

6. 平和構築人材育成事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

参加の理由は人それぞれだと思いますが、現場経験がなく今後平和構築の現場で経験を積んでいきたいと考えていらっしゃる方や、他分野での経験はあるけれども平和構築の分野にも今後関わっていきたいと考えていらっしゃる方にとって、非常に良いプログラムだと思います。私は平和構築については全くの素人でしたが、本事業に参加したことで専門分野にプラスαの経験を積ませていただくことができ、結果的にそれが就職活動時等に有利に働いていると感じることが多くありました。

様々なシナリオを描いて行動する方は多いと思いますが、まずは挑戦してみて、目の前にあることに精一杯取り組んでいけば、結果は後についてくると思います。是非色々な分野の方に挑戦していただきたいと思います。

平成 24 年 2 月

平成 21 年度研修員
永田 有花